

令和4年度 本年度の学校評価（最終報告）

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>(1) 学習・資格取得・読書 ア 授業規律の徹底により学習習慣を定着させ、新学習指導要領に則った授業改善や一人一台タブレットの活用により生徒の学習意欲を高めさせる。 イ 全商主催検定試験を基本に、外部団体主催の高度資格取得に挑戦させる。 ウ 図書室の積極的な活用を図り、読書習慣を身に付けさせる。 (2) 学校行事・部活動 ア 各学校行事の趣旨を明確にし、生徒を主体的に参加させることで成長を促す。 イ 部活動は成績偏重にならないよう留意し、公平性、自主性、協調性を養うよう意識させ目標を定めさせる。 (3) 生徒指導・生徒相談・学校安全 ア 基本的な生活習慣を確立させ、挨拶の励行、道徳性やコミュニケーション能力の向上を図る。 イ 問題や多様化する生徒の悩み（いじめ・LGBTを含む）を抱える生徒を日常的な観察や定期的な調査等により早期発見し、校則等の見直しなど組織的な対応を図る。 ウ 校内美化の徹底と防災・防犯を含めた安全・安心を確保するための対策を施す。 (4) 進路指導 ア 3年間の綿密な計画のもと、適確な進路情報を提供し、意識高揚を図る。 イ 進路決定（内定）後の進路指導の充実を図り、卒業後の進路先に備えさせる。 (5) 開かれた学校づくり ア 地域連携、高大連携等の取組や積極的な情報発信により地域との連携を密にする。 イ 社会奉仕・ボランティア活動、国際交流活動等の推進を図る。 (6) キャリア教育 ア 生徒自身で自分らしい生き方について考え、生涯学び続ける力を身に付けさせる。 イ 教員として相応しい言動に留意し、常に自己研鑽に努め、研究と修養を行う。 (7) 教員の働き方改革の推進 ア 全職員で、働き方改革に関する具体的な取組についてグループワークを行い、情報共有を行う。 イ 教員の健康と多忙化解消のため、部活動は、学期中は平日と土日に各1日、週2日以上以上の休養日を設定する。</p>			
<p>項目（担当）</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>成果と課題</p>	<p>次年度に向けての改善策</p>
<p>総務部</p>	<p>P T A活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染状況の中で、活動を制限したり、変更したりしてP T A行事を実施する。</li> <li>役員会で専門分野別に分かれ、話し合いを設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でも「生徒のため」という思いをベースに活動を工夫し、一部実施することができた。</li> <li>専門分野別に分かれ、話し合いの場を設けることはできたが、実現できなかった計画が多くなってしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒のため」というテーマで、P T A活動の意義や活動内容を改めて考え直さなければならぬと感じた。活動が制限される中で、保護者と学校がどう結びつき、どう生徒たちの活動に関わっていくのかを、他校の例等も参考にしながら模索していく。生徒に充実感・達成感・大きな経験をさせるための新たな取組を考えたい。</li> </ul>
	<p>情報発信ツールの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信を頻繁に行い、ホームページ等、情報発信の有効な手段について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の担当者と密に連絡を取り合い、きめ細やかで、スピーディな情報発信に努めることができた。中学生や保護者からは好評であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報発信者の過度な負担になり過ぎてしまうこと」が課題となった。今後、授業等をさらに活用していくため、連携を強化すべきだと感じた。情報は受け取る側にとっては、必要かどうか分かれると感じた。今年度いただいた意見を参考にし、「伝えたいこと」「知りたいこと」のバランスがとれた情報発信を目指す。</li> </ul>
<p>教務部</p>	<p>授業改善と 授業規律の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡商ステップアップアンケートを継続して実施する（7月・12月）。次学期における授業と授業規律の見直しへ提案する。</li> <li>新学習指導要領で示された3つの観点の評価方法の開発を図る。</li> <li>成績不振者について、定期的に学習状況を追跡調査し、教科、学年と協力し意識改善を図る。</li> <li>多欠課者指導報告票を活用し、多欠課者の早期発見・早期助言を行い、履修保留者<sup>等</sup>0を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領改訂に伴い、評価方法の開発を実践してきた。相互評価やリフレクションシート、ルーブリック評価の開発を授業参観週間や研究授業、あいちラーニング推進事業を通して取り組んできた。</li> <li>評価基準の検討も学期ごとに見直しを図り、学校の実情に合った評価ができるように改善できた。</li> <li>成績不振者、多欠課者の指導をきちんと行ったが、コロナ禍で指導が困難になっている現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別評価の方法を継続して開発することで、指導と評価の一体化ができる評価法や評価規準を作成していき、生徒も教員も納得できる評価を構築していきたい。</li> <li>コロナ禍で成績不振者や多欠課者に対する指導が困難になっている。現状の指導法を見直し、生徒に寄り添った指導を模索していきたい。</li> </ul>
	<p>図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館だよりやビブリオバトルなどを通じて生徒が本に親しむ機会をつくり、読書習慣の確立を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の利用者が増加したため、貸し出し冊数も100冊増加し、生徒が利用しやすい図書の運営ができた。</li> <li>ビブリオバトルも生徒が興味関心を持ち、県大会まで進出する生徒も現れた。</li> <li>考査期間中は自主勉強に利用する生徒も多数おり、幅の広い図書館利用ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度より、本館改修のため図書館をリニューアルする。利用者の増加や貸し出し冊数の増加は見込めないが、生徒をはじめ誰もが利用しやすい図書館を目指したい。</li> </ul>
<p>生徒部</p>	<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻者数の集計をしているものを月ごとで統計を出し、クラス掲示とともに日常的な指導に役立てる。</li> <li>遅刻防止週間も含めて、生活委員会の活動と校門指導を定期的実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度同時期と比較して遅刻者は増加した。しかし、各学年で日々のデータを管理しており、当該生徒への指導が適宜実施できた。</li> <li>委員会の活動は遅刻の呼びかけだけでなく、自転車整備、交通安全を含め生徒の取組は充実することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻の段階指導の見直し、再発防止策やHR担任と連携し保護者への協力を図る。</li> <li>統計データの活用や、生活委員会の活動を活性化し基本的な生活習慣の確立を目指す。</li> <li>安易な理由による遅刻者への指導内容を全職員で共有し、全学年で共通認識のもと指導していきたい。</li> </ul>
	<p>いじめ防止対策基本方針を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ対策基本方針に沿って、いじめ及びいじめに準ずる案件が適切に処理されているか確認し、運用上の問題点を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒情報についての共有が十分でない案件があった。支援チーム内で一部のメンバーだけで情報が共有されており、正確な情報を把握するために時間を要した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省を踏まえ「対策支援チーム」内での情報の共有方法を検討した。また、愛知県教育委員会の「高等学校いじめ防止基本方針（案）」をもとに、本校の基本方針の見直しを行う。</li> </ul>
<p>生徒部</p>	<p>学校生活の充実を図る行事の運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動を活性化させ、生徒の意見を取り入れた行事運営をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各委員長を決めることで組織化を図った。特に、学校行事では各委員の役割分担を明確にさせ、主体的に活動できる環境をつくることのできた。学校全体で各委員会活動の役割が認識されていないため、再確認を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会の活動及び組織を知らない生徒もいるため、係を決める際、事前に資料（活動内容・組織図）を教室掲示することで再確認させる。さらに、学校における自分たちの学校生活の充実・発展や改善・向上するための課題を、生徒の立場から自主的に考えるきっかけをつくりたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での行事運営を考え、生徒と共に有意義な学校行事の構築をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事運営を考える際、昨年度の教職員・生徒アンケートも活用することで、制限がかかる中で、安全で充実した競技・公演を実施することができた。しかし、生徒が求める行事と教員が考える行事とのギャップを感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナ5類移行により、行事内容、人数制限などが緩和されることが予想される。コロナ禍での経験を上手く活かし、引き続き安全で充実した運営を図りたい。また、生徒のニーズを把握し、生徒が納得するルールを定めることで、教職員及び生徒が気持ちよく活躍できる行事を検討していきたい。</li> </ul>
<p>進路指導</p>	<p>ミスマッチをうまない進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の進路希望調査や進路相談メモ等を組み合わせながら、生徒カルテを運用する（3年生中心）。</li> <li>進路決定後にモチベーションを下げないように、生徒と内定している進路先が面談や関わりをもったりする機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望先検討の際、生徒カルテの活用を図った。これまでの進路希望の変化や保護者の意向を視覚化でき、効果的に運用できた。</li> <li>企業の学校訪問時や企業の方を招いた下級生対象の企業説明会に内定者を同席させることで、意識づけを図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点では試作にすぎず、今後本格的な運用になれば、日々変化する進路希望状況を調査及び管理することで大きな負荷がかかる。外部ツール活用も視野に入れ、担任団と検討していきたい。</li> <li>学校訪問や下級生対象の説明会は日中にあり、3年生はほぼ授業中である。該当生徒には事前に確認しているが、多少なりとも授業に支障が出るため、今後は場面設定を含め検討が必要である。</li> </ul>
	<p>情報発信、情報共有、情報蓄積の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導室前の掲示板を活用し、適切な情報を適切に発信する。</li> <li>生徒が知りたい情報を適切に発信するため、生徒進路委員会を定期的に開催し、ヒアリング及び協議の場を設ける。</li> <li>過去資料に関してガイダンスを通じ、生徒に周知徹底を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部から送付される進路関係資料を掲示することで、生徒に対しての情報発信を行った。</li> <li>月に1度発行している進路だよりの中で、進路委員から話題にしてほしい内容を募り、生徒ニーズに沿った内容にすることができた。</li> <li>ガイダンスの中で生徒に対して周知徹底を図った。情報収集目的に、進路指導室や進学資料室を利用する生徒が増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新情報を収集していく必要はあるが、学校単体では限界がある。業者と連携して最新情報を収集、発信していきたい。</li> <li>進路だよりは全て教員が作成しているため、生徒自身に作成させることで、より生徒のニーズに合致する進路だよりが作成できるのではないかと考える。</li> <li>利用者数が増えてはいるが、内容として多いのは過去の受験レポートの閲覧と、それに関する質問・相談である。その他の生徒相談にも関わることができるよう環境整備や体制を整えたい。</li> </ul>

保健部	保健	心身に健康問題を抱える生徒の早期対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、相談担当者と連携を取りながら対応する。</li> <li>・毎週金曜日に相談担当者会を実施し、生徒の情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年からの情報をもとに、スクールカウンセラーとの面談が必要と思われる生徒・保護者に対して案内することができた。また、管理職とも定期的に情報共有することで、迅速な対応が必要な際に備えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も現在の連携体制を継続するとともに、今年度同様、必要に応じてケース会議を開いていきたい。</li> </ul>
	相談	生徒の相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部との連携</li> <li>・個別の教育支援計画・指導計画の作成手順・様式についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別指導に関する会議にも相談室長が出席することにより、連携がスムーズに行えた。</li> <li>・個別の教育支援計画・指導計画を保健部に提示することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校傾向のある生徒などの情報を適宜共有しながら、遅刻指導等の指導方法に生かしていきたい。</li> <li>・作成した個別の教育支援計画・指導計画の様式・作成手順について分掌内で議論し、関係する分掌・学年に提示して運用に向けて進めていきたい。</li> </ul>
1年生	授業規律の徹底及び学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリックを用いて目標を具体的に示し、意欲向上につなげる。また、振り返りシートを用いて自己の学習を振り返らせ、目的意識の向上につなげる。</li> <li>・学年統一の月間モットーを掲げることで、学び合う心、高め合う心を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各定期考査前に自ら計画を立てることで、学習に対する自律性及び目的意識をもたせた。</li> <li>・考査後は、振り返りによる自己評価を行い、次の考査に向けた課題の明確化と自己実現に向けた取組を行った。</li> <li>・生徒自ら月間モットーの考案に参加することで、主体的に学ぶ姿勢を育成した。</li> <li>・授業の中で、課題の解決に向けて主体的に粘り強く取り組む姿や、他者との対話によって思考を深め、自信をもって発表をする活発な姿が多くみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習意識や進路意識の向上を図るとともに、家庭学習の充実を図る方策を考え、実践する。</li> <li>・キャリアパスポートの活用により、学校生活のさまざまな場面を通して、自らの強みを理解させ、進路目標の設定に役立たせる。</li> <li>・授業の延長上に資格取得があるということを理解させ、進路実現に向けた資格取得ストーリーを考えさせる。また、資格をどのようにビジネスで活かすことができるのか考察させる。</li> <li>・各学科における専門分野の基礎学力を定着させ、積極的に高度資格に挑戦するよう呼びかける。</li> <li>・他学年及び各分掌と連携しながら、残り2年間を見通した進路指導の充実を図る。</li> </ul>	
	基本的な生活習慣の確立及び自律性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会や学年通信等を利用し、生徒に自己の在り方生き方を考えさせるような問いかけをし、考える力を育成する。</li> <li>・全体での指導ではなく、その時々個別指導を強化するよう、担任会での情報共有を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートの「基本的な生活習慣（挨拶、時間厳守、身だしなみ）の指導」についての設問に「理解できる」と回答した生徒は、88%という結果であった。</li> <li>・遅刻や欠席の数は、2学期から増加傾向であった。一人一人が悩みや不安を抱え、それを解決しようと努力する姿が多くみられた。</li> <li>・「悩みや不安」についての設問に「親身になって相談に乗ってくれる先生が多い」と回答した生徒は、87%という結果であった。</li> <li>・週に1回、担任会で生徒情報を共有し、各分掌と連携しながらきめ細かな対応を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「理解できる」から主体的な行動への意識向上に向けての声掛けを増やすとともに、生徒相互で高め合える工夫をする。</li> <li>・学校生活のさまざまな場面を通して、適切な態度や言葉遣いで意思疎通を円滑に行い、仲間との一体感を作り出すことができるよう育成する。</li> <li>・インターンシップを通して実社会を体験することにより、職業に対する興味・関心を向上させ、一人一人のキャリア教育を推進する。そのためには、生徒の希望に合致する実習先を用意することが必要である。</li> <li>・生徒が、自己を尊重し他者の大切さを認めることができるよう、生徒一人一人に目を向け、安心して登校できる思いやりのある指導を継続する。</li> <li>・悩みの調査やいじめの調査、個人面談及び週に1回の担任会を通して、生徒の悩みの早期発見と早期解決に努める。</li> </ul>	
	集団生活環境の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、修学旅行等を通じて集団生活のルールへの遵守と、行事を成功させるための環境の構築を、学校生活を通してつくりあげていく。</li> <li>・自他の個性、立場を理解し認め合うとともに自らの言動、行動を省みて誰もが過ごしやすい環境と人間関係を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大の行事である修学旅行を実施し、成功を収めることができた。新型コロナによる制限や対策等、事前準備から実施後まで細かな指導に苦慮する場面もあったが、事後アンケートにおいても概ね良好な結果となった。</li> <li>・新型コロナ感染への不安や、人間関係に悩む生徒もいた。集団生活になかなか馴染めず大きな不安を抱える生徒に対して、担任、学年、教育相談を中心に細やかな指導ができているが、欠席が続く生徒もいるので今後のケアも継続していきたい。負担に偏りがでないよう全体として対応にあたりたい。</li> <li>・学期ごと、行事ごとでの振り返りシートで自らの行動を省みるとともに、今後の行動について考えさせる機会を設けることができた。自他を認めあうことは今後の人生においても大切なテーマとなることを自覚させるような指導も必要になってくると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとっての周りの存在価値の重要性や意義を考えさせる機会をつくるとともに、自分の行動の在り方をも考えさせる。</li> <li>・最終学年となることへの自覚と、下級生への模範となる意識をもった行動をとるような働きかけを常に行っていく。</li> <li>・引き続き振り返りシートを節目で実施し、自分の行動を自らの進路選択につなげていくための基礎資料として記録していく。</li> <li>・担任会、学年会等を通じて生徒情報の共有を密に図り、生徒一人一人に応じた指導を継続していく。</li> </ul>	
	2年生	明確な進路目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の定着と意欲的、積極的な検定取得を目指して、知識・技術の向上を図り、進路選択の幅を広げていく。</li> <li>・進路実現のための準備期間として、進路行事を中心に明確な目標の設定と実施をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路行事のみならず、STやクラスLTを通じて進路への意識付けの取組を数多く実施できた。検定取得に対しても、意欲をもって上位を目指そうとする生徒を増やすことができた。一方で、早い段階であきらめてしまう生徒や意欲をなくしてしまう生徒への対応がやや不十分であった。</li> <li>・看護志望の生徒に対する早期の指導を開始することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝ST後の5分間（M5）を活用した進路指導や検定取得に向けた指導の充実を図る。</li> <li>・タブレット端末を活用した情報の提供や共有を図り、学年通信等を通じて啓発を行う。</li> </ul>
3年生	主体的な進路選択と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に情報を収集させ、進路実現に向けて行動させる。</li> <li>・進路指導部と連携し、進路情報を共有しながら学年全体で生徒の進路をサポートし、進路先とのミスマッチの防止に努める。</li> <li>・個人面談を強化し、本人及び保護者の意思を確認しながら個に応じた進路指導にあたる。</li> <li>・進路実現と社会に出るための準備として学力向上と検定の取得を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を有効活用し、早い段階でオープンキャンパス参加の計画表を作らせたり、希望する企業や学校について調べた情報を記入させることで、保護者や担任と話し合う際の材料とすることができた。</li> <li>・進学では指定校も含めてウェブ出願が増加し、本人がログインしないと必要な書類や入金等の締め切りが分からず、担任や進学担当者が出願を管理することに苦慮した。また入試方法が多様化しているため、担任や進学担当者だけではフォローしきれず、学校全体での共有や保護者との連携の必要性を感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学については、塾や大学が開催する説明会等に積極的に参加し、情報を学校全体で共有する必要がある。3年生や進路指導部だけでなく、職員会議や共有フォルダ等で全ての教員が常に最新の進学情報に触れることができる体制をつくるのが充実した進学指導につながると考える。また、情報を保護者にどのように発信していくことができるかも検討していかなければならない。学年別懇談会は希望者の参加のみであり、進学者の保護者会は指定校の情報が開示される前に実施するため、保護者が入試の種類や注意事項を把握していない場合がある。ウェブ出願が増え入試が多様化した現在、どの入試でも保護者の協力のもと各家庭又は本人主体で情報収集や手続きを進める必要があることを入学時に伝える必要がある。</li> </ul>	
	新成人としての自覚と自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人としての責任を自覚させ、成人としてふさわしいマナーの向上と周りに配慮した言動の定着を図る。</li> <li>・学校生活や行事を通して自ら気づき、考え、人のために行動する態度やコミュニケーション能力を育成する。</li> <li>・社会の動きに対する関心を育み、社会の一員として視野を広げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会や学年通信、講話等で成人に伴う金融トラブルについて伝えてきたが、奨学金を保護者の知らないうちにカードローンで借りた生徒もいた。</li> <li>・学校行事や学年レクリエーション、お別れ会等実行委員中心に生徒主体で運営することで生徒の成長を促すことができた。</li> <li>・朝ST後の5分間（M5）の計画表を各クラスで2回（4月と11月）作成し担任会で共有することで有効活用を促進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の11月～2月に実施しているマネー講座等についても時期を再考し、奨学金やライフプラン、お金に関する知識については2年生または3年生の早い段階で身に付けさせていきたい。</li> <li>・朝のSTで配布物や連絡事項が多く、また担任が1限の授業をもっていたり、生徒が教室移動をする場合は時間がないため、計画的にM5を実施することが難しい。M5を今後本当に有効活用していくとしたら、優先的に時間を確保していく必要がある。</li> </ul>	

商業科	全科 (1年)	基礎・基本の定着と主体的に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を基本として学習を進め、基礎的・基本的な知識の定着を図る。</li> <li>タブレット端末を用いた授業を実施し、情報活用能力を高めながら情報リテラシー能力を養う。</li> <li>地元産業についての調査、探究を行い、地域に貢献できる「人財」となるための意識づけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に基づき、主体性を養うための学習活動を取り入れることにより、表現するための手段を自ら選択するなど、より自発的に行動できるようになった。</li> <li>「情報処理」だけでなく学校設定科目「岡崎学」でタブレット端末を活用した授業を多く実践し、自らの研究結果を表現豊かに報告するなど、各自で考えながら授業に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生では学科単位等の少人数での、観点別評価をより公平に行うことができるような形づくりが必要となる。他教科も含め選択科目を中心に、不公平感のない評価基準を設定したい。</li> <li>学校設定科目「岡崎学」については他の科目との連携を行い、担当教員や生徒に過度な負担がかからないような授業展開を検討したい。</li> </ul>
	国際ビジネス	コミュニケーション能力の伸長と国際感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部との連携を通して、国際情勢に目を向けさせる。</li> <li>ビジネスマナーを身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行では、英語研修プログラムに参加し、留学生や在日外国人との交流を通して国際理解に関する知識と国際情勢に興味をもつことができた。</li> <li>税理士や社会労務士等の外部講師を招聘し、社会人としての心構えを学ぶことができたが、ビジネスマナーに関しての外部講師は感染症の影響で招聘することができなかった。</li> <li>英語科と連携して、姉妹都市のウッデバラ市とのオンライン交流を行い、英語力の育成に取り組むことができた。</li> <li>海外インターンシップの代替として国内英語研修合宿を実施し、英語力を高めたい生徒への学びの場を提供することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も海外修学旅行を実施しないことが決定している。そのため英語研修プログラムを実施するなど、他学科とは違う修学旅行を行っていききたい。また、事前学習を科目で取り入れることができれば、より一層充実した修学旅行になると考える。</li> <li>外部講師の招聘を、実際に来校していただく形からオンラインでの実施に移行したい。そうすることで、より幅広く講師を招聘できると考える。</li> <li>英語科との連携を強固なものとし、教科横断的な学習に取り組む。</li> <li>海外留学が可能になりつつあるため、その機会をきちんと提供し、グローバル人材の育成を図っていききたい。</li> </ul>
	情報処理	情報社会に対応できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科、科目に関わらず、いずれの科目においても意欲的に授業に臨ませる。</li> <li>各科目における目標を明確にし、その目標に沿った授業を展開する。</li> <li>情報に関する知識・技術・モラルを身に付けさせるため、各科目で連携して授業を実施する。</li> <li>タブレット端末を使いこなせるよう指導し、より効果的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の生徒に関して、検定試験など意欲的に授業に臨ませることが厳しかった。その反省を生かして2年生では主体的に学ばせることができた。</li> <li>タブレット教育に関しても3年生の扱い方が良くなかったため、その反省を生かして1年生、2年生に指導できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいカリキュラムがスタートするので、今まで以上に授業担当者同士で連携を図りながら授業展開を考える</li> <li>情報処理に興味関心をもってもらえるような授業展開を心がけ、不合格になった検定試験にも積極的に再挑戦できるような雰囲気づくりをする</li> <li>タブレット端末の扱い方について、学校全体として指導できる体制を整え、情報教育の活性化を図りたい。</li> </ul>
	総合ビジネス	モラルをもって地域社会に貢献できる人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別学習とグループ学習を適切にバランスよく取り入れ、生徒主体の授業展開を増やす。</li> <li>地域の人や企業と関わる実践学習を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「商品開発」におけるオリジナル商品の開発においては、生徒が商品案を検討し、プレゼンテーションを行うなど、主体的な活動を行うことができた。</li> <li>「ビジネス情報」においては、新たに画像編集の内容に取り組むなど、ICT社会で活躍できる人財の育成にも努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年1学級だったこともあり、それぞれの授業が個々の教員に任されている部分が多かった。教員間で情報共有を行い、多くの教員が連携して取り組める仕組みを作っていきたい。</li> <li>次年度からは2年生において「商品開発と流通」の授業が行われるため、2、3年生同時展開となる。令和6年度以降の教育課程も鑑み、さらに多くの地元企業の協力を仰いでいきたい。</li> </ul>
	情報会計	即戦力となる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎から専門分野まで幅広い知識の習得ができるような授業展開をする。</li> <li>即戦力となる技術の習得を心がけた授業展開をする。</li> <li>タブレット端末をはじめとしたICT機器の授業活用を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担当者が連携をとり、習熟度別に理解できる丁寧な授業を展開した。</li> <li>実践的、主体的な学習を促す工夫をし、自ら考え行動に移せるような授業展開をした。</li> <li>コミュニケーション能力と即戦力の向上を図った。</li> <li>タブレット端末による課題提出および解説、調べ学習による研究発表等、授業においてICT機器を積極的に活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もタブレット端末等を利用し、教材のファイル共有によって各講座の連携をとりながら授業展開に活かしていきたい。</li> <li>実践的、主体的な学習を通し、自ら考えて処理をする能力、さらにビジネスマナーを取り入れた「報・連・相」の実践を行っていく。</li> <li>Teams等による授業動画、解説提示、オンライン授業等によりタブレット端末の活用を行っていく。</li> </ul>
衛生委員会	教職員の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の在校時間調査結果の分析を行い、勤務の見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内において、危険箇所及びヒヤリハットと思われる箇所を点検・周知し、その改善に努めた。また、勤務環境の整備も実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に衛生委員及び教職員による巡回が実施できればよい。また今後も、勤務体制の見直しを継続的に実施していく。定期的に健康に関する研修を取り入れていきたい。</li> </ul>	
総合評価	<p>本年度の重点項目に対する評価及び改善点</p> <p>(1) 学習・資格取得・読書  新学習指導要領施行による3観点別評価（「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」）において、その評価方法の具現化及び実施に苦慮をした。しかしながら、教務部を中心とした教職員の取組により学期を終えるごとに柔軟に対応することができた。  考査週間中等における図書室での学習環境場所の提供により、図書室を利用する生徒も増加した。  タブレット端末を活用した学習に生徒も慣れてきており、今後もICTを活用した多くの学習形態の対応が必要である。そのため、来年度より新たな分掌として、情報研修部を立ち上げ、職員のICT研修等を定期的に取り入れていく。</p> <p>(2) 学校行事・部活動  昨年度までは、新型コロナウイルス感染症対策により実施が困難であった諸行事であったが、本年度は感染症対策を行いながら、ほぼすべての行事を実施することができた。また部活動においても、部活動ガイドラインに沿った活動が定着したことにより、生徒が活躍する場面も増え、活発に活動する姿が多くみられた。生徒のコミュニケーション能力を育む場として、来年度も特別活動を積極的に勧めたい。</p> <p>(3) 生徒指導・生徒相談・学校安全  本年度入学生より制服が一新され、ジェンダーレスを意識したスタイルを取り入れることができた。  生徒指導、生徒相談においては、個々に対応するべき生徒が増加し、その対応に追われることがあった。先生方のきめ細かな対応と協力体制もあり組織的に解決できた事案もあったが、組織としての対応が不十分であったケースもあり、来年度課題のひとつとなった。  学校安全においては、危機管理マニュアルを最新のものに改定することができ、より安心・安全な学校づくりを進めることができた。</p> <p>(4) 進路指導  高校3年間を見据えた進路指導が段階的に実現できた。早い段階からの自分ごとへの意識づけを目的とした進路的行事を取り入れることができた。また、3年生の進路決定については、年々進学希望者が増加している。よって、進学希望者の対応への計画・立案について改めて考えていかなければならない。就職については多くの企業から求人をしていただくことができ、求められる社会人の育成に今後も努めていく。</p> <p>(5) 開かれた学校づくり  学校設定科目「岡崎学」が導入され、地域理解や地域連携の機会がより一層増え、地域と協働しての学習実践が可能となっている。また、岡崎市の姉妹都市であるスウェーデンのウッデバラ市と国際交流が行われており、グローバルな人材育成が実践されている。</p> <p>(6) キャリア教育  民法の一部改正により、成人年齢が18歳に引き下げられた。このことにより、主権者教育、消費者教育、金融教育等の成人として必要な学習内容が各教科・科目で実施されている。また、今年度より2年間の金融教育推進校の指定をうけ、12月には金融教育シンポジウム中間報告会を外部の有識者を招き実施することができた。改めて金融教育の必要性を生徒たちに伝えることができた。</p> <p>(7) 教員の働き方改革の推進  年間37日の定時退校日では、ほぼ時間どおりに退勤することができた。在校時間調査においても40時間を超える職員は減少し意識の変化がみえた。平常日の退勤時間も、大きく超えることもなくなった。職員のワークライフバランスが少しずつ変化している現状である。その反面、仕事を持ち帰らざるを得ない職員や、部活動の活性化に尽力されている職員もみえ、仕事のスリム化や組織化への推進が必要不可欠であり、大きな課題でもある。</p>				